



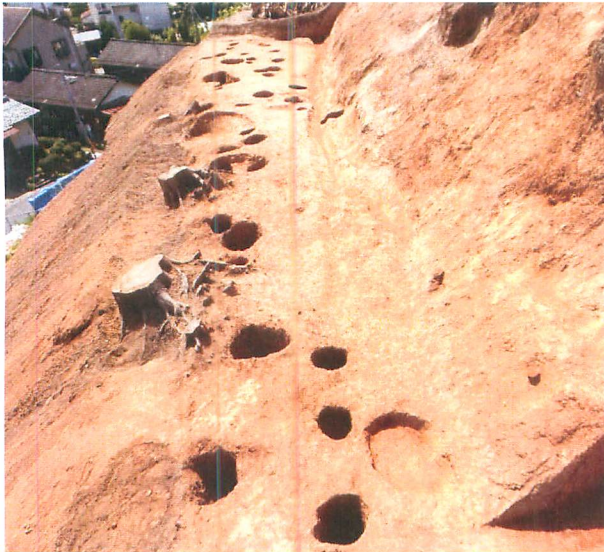
米子市埋蔵文化財センターたより



第33号

2019年6月

石井要害跡第3次調査 - 二段目の郭にも建物跡 -



二段目の郭残存状況



柵列跡

4月から行ってきました中世城館の石井要害跡第3次調査は、6月21日に終了しました。

石井要害は、明治2年の『石井村田畑地続字限図・字要害』という絵図では、楕円形をした丘陵を三段に削り、郭を築いています。二段目の郭跡は住宅造成工事により削られて大半が失われていますが、今回の調査では、その二段目の郭で建物跡と柵列が見つかりました。これまでも建物跡の可能性のある柱穴は多数見つかっていますが、確実に建物跡として断定できる柱穴は初めて確認されました。検出した建物跡は桁行2間の南東-北西方向の建物跡と推定されます。

調査区の北西端では、3基の柱穴が0.9m間隔で一直線上に並んでおり、さらに北西側に隣接する第2次調査でも同一直線状に柱穴が並んでおり、ここに柵を設置したと考えられます。中央部分の柱穴間の長さが長くなっており、この部分に出入口が存在した可能性があります。

また、調査区中央やや南東寄りにある柱穴からは「永楽通寶」という銭が23枚と土師質土器の坏身が出土しており、土師質土器の坏身に「永楽通寶」を被せたか、入れたかして埋納したと考えられます。埋納した理由としては、地鎮などが考えられます。

これまで3次にわたる調査の結果、石井要害跡の様相が徐々に明らかとなってきました。石井要害跡の調査は、第4次調査が予定されており、その調査の成果によって石井要害跡の様相がさらに明らかとなることを期待したいと思います。(高橋)

発掘調査情報

一米子城跡54次調査(※)終了一

3月6日から調査を開始した米子城跡54次調査は、6月18日に無事に終了しました。調査地点は、江戸時代の絵図では荒尾家の家臣である早瀬玄佐の屋敷地と推測されましたが、ここからは水路跡や掘立柱建物など多数の遺構を検出することが出来ました。これから年度末に向けて、報告書作成作業を進めていきます。

今回の調査では、昭和22年以前に埋め戻された桶枠の井戸を検出しました。井戸の中からはたくさんの近代遺物が出土しましたが、その中の一つに「一年 大谷シノ」という名前が彫られた、欠けた硯が出てきました。念のため、近くにあった義方小学校の卒業生名簿を確認すると、明治33年3月の卒業生に同じ名前を見つけました。もしかすると、調査地点には昭和22年頃まで大谷さんが住んでいたのかも知れません。また、井戸の中から出土した品の中には戦車や戦闘機、田河水泡の漫画「のらくろ」の絵が描かれた茶碗など戦時色の濃い遺物もたくさん出土しました。これらの茶碗類も、井戸が埋められた時代の暮らしを物語る資料と言えるでしょう。

(※)前号で米子城跡52次調査としていましたが、正しくは54次調査の誤りでした。お詫びして訂正いたします。(佐伯)



整理室たより

米子城跡54次調査の出土品の整理

一タタキ整形の土器一

整理室では、米子城跡54次調査の基本整理を進めています。出土遺物は、近代、近世、古墳時代と各時期に涉りますが、中でも注目されるのが古墳時代前期の土師器です。

破片が多く接合できる物が少ないのですが、器面にタタキ整形痕跡をもつ物があり、畿内の庄内系や布留系の土器と考えられます。隣接する米子城跡2遺跡からも出土しており、当時、中海に面していたことから、海上交通によって畿内との交流があったことを物語る土器ではないかと考えられます。(小原)



米子城跡54次調査の整理作業

遺跡シリーズ3 1 妻木晩田遺跡仙谷地区 (むきばんだいせきせんだに)

妻木晩田遺跡は米子市淀江町から大山町にまたがる大山北麓の広大な遺跡です。

仙谷地区は、妻木晩田遺跡の北西端に位置する南北方向の二つの丘陵からなっています。西側の丘陵には仙谷1、8、9号墓の3基と、東側の丘陵には仙谷2、3、4、5、6、7号墓の6基の墳丘墓が確認されています。

この丘陵の西側に隣接する洞ノ原地区の墳丘墓と並ぶ弥生時代の墳墓域と考えられています。

この仙谷地区のうち、1号墓が四隅突出型墳丘墓、3号墓が方形の区画墓で弥生時代後期中葉、続いて四隅突出型墳丘墓の2号墓、方形区画墓の5～7号墓で、弥生時代後期後葉の時期です。注目されたのは方形区画墓の8号墓で、他の墳丘墓の埋葬施設が木棺直葬式であるのに対して、大形円礫で組まれた石棺であったことです。時期的には古墳時代前期初頭と考えられ、9号墓とともに仙谷地区の墳墓群の最後の姿を物語っています。

また、1号墓は墳頂の埋葬施設が未調査ですが、墳丘規模、立地、貼石などの状況から観て、集落最盛期の首長の墓と考えられています。

仙谷地区の墳墓群も観察できるように保存整備されていますので、洞ノ原墳墓群とともに、是非、訪れてみてください。



仙谷2、3、4号墓

コラム

江戸時代を掘る⑦

—米子城跡7遺跡—

この場所は1994年に米子駅境線加茂町沿道土地区画整理事業に伴う道路新設工事調査として緊急発掘されました。

ここは、かつて内堀に面した堀端町と呼ばれた重要な武家屋敷地で、主に米子組士が住まいしていた所です。

調査は、道路敷きの予定範囲を発掘して、溝、土坑、井戸跡、瓦溜り、柱跡などの多数の遺構を検出するとともに、伊万里焼の磁器や播鉢、焙烙などの陶器、漆器などの木器を検出しました。注目されたのは、表に「見随院様香物源六」と書かれ、裏に「もろげえび」「干いか一つ」「鯛三つ」などと書かれた荷札木簡で、当時の食生活を物語っています。

(小原)



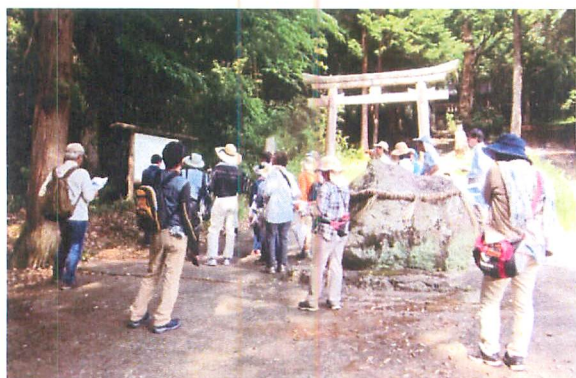
荷札木簡出土状況

センター・資料館日誌

- 4月18日(木) 上淀廃寺壁画原画を上淀白鳳の丘展示館へ搬出した。
- 4月28日(日) 「米子つつじ祭り」福市会場が福市史跡公園で開催され、施設を解放した。
- 5月10日(金) 「鳥取県ミュージアムネットワーク」の総会へ出席した。
- 5月21日(火) 尚徳小学校3年生古代学習で来館した。



- 5月25日(土) 成実地区史跡ガイドウォークを開催した。



- 5月28日(火) 尚徳小学校3年生が古代火起こし体験で来館した。
- 6月11日(火) 杉谷氏が陰田36号墳の鉄剣の調査で来館した。
- 6月20日(木) 出雲弥生の森博物館の高橋氏が陰田横穴の資料調査で来館した。
- 6月25日(火) 尚徳小学校2年生が生活科見学で来館した。

行事案内

- 「古代人になろう！」—古代人体験—
夏休みの思い出に福市資料館で開催する古代人体験。ふるってご参加ください。
勾玉づくり、弓矢・火起こし体験などをコースとして学芸員の指導で行います。



弓矢体験の様子

- 開催日 第1回2019年8月10日(土)
第2回2019年8月18日(日)
- 開催時間 午前10時～12時
- 集合場所 福市考古資料館
- 定員 各回15名 資料代300円
- 申込 電話・FAX受付26-0455まで
- 締切 8月5日(月)先着順

編集後記

夏のような五月の暑さが過ぎ、本格的な夏は、もうすぐそこに迫ってきました。

調査員達は、発掘現場、遺物整理、センターの事業と忙しく動きまわりながら日々を過ごしており、バテないように頑張っています。

発行日 令和元年6月28日
発行者 米子市埋蔵文化財センター
指定管理者(一財)米子市文化財団
電話 0859-26-0455
Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp